

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI日本・アジアフィンテック株式ファンド」は2022年4月25日に第5期決算を行いました。

当ファンドは、主として、日本を含むアジアの金融商品取引所に上場しているフィンテック関連分野での高い成長が見込まれる企業の株式等（DR：預託証券を含みます。）に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

### 第5期末（2022年4月25日）

基準価額	17,043円
純資産総額	1,779百万円
第5期	
騰落率	△24.8%
分配金（税込み）合計	0円

(注1) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>  
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

# SBI日本・アジア フィンテック株式ファンド

追加型投信／内外／株式

## 交付運用報告書

第5期（決算日2022年4月25日）

作成対象期間（2021年4月27日～2022年4月25日）

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiasset.co.jp/>

## 運用経過

## 基準価額等の推移

(2021年4月27日～2022年4月25日)



期 首：22,660円

期 末：17,043円 (既払分配金 (税込み) : 0円)

騰 落 率：△24.8% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは、主として、日本を含むアジアの金融商品取引所に上場しているフィンテック関連分野での高い成長が見込まれる企業の株式等 (DR：預託証券を含みます。) に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、期初22,660円でスタートし、4月28日に期中最高値の22,610円を付けました。その後、8月中旬ごろまで概ねレンジ取引となりましたが、国内でのワクチン接種の加速、菅首相 (当時) の退陣表明をきっかけとした構造改革期待の台頭などから、当ファンド組入銘柄にも買いが入り9月中旬に掛けて急伸びしました。

もっともその後は、中国不動産問題への懸念等から日本株全体が売りに押される中、当ファンドの組入銘柄も軟調な推移となりました。

その後も、オミクロン株の感染拡大に、各国中央銀行がインフレ抑制を目的とした金融引き締め策に前向きな姿勢を示したことが加わり、当ファンドが組み入れている中小型・グロース株を中心に売り圧力に押される展開となりました。特に、年明けに公表されたFRB (米連邦準備制度理事会) が積極的な金融引き締め前向きな姿勢が示されると、当ファンドの組入銘柄は軟調な推移を余儀なくされました。3月9日に期中最安値の15,662円を付けた後、日本株市場で小型グロース株を見直す動きが見られたこ

とから多少値を戻す展開となりましたが、決算日である4月25日の基準価格は17,043円となりました。

なお、当ファンドが組み入れているアジア株（特に中国株）は、①中国政府によるゼロコロナ政策による個人消費の回復の遅れ、②IT企業を対象とした規制強化の動きに、③米国による中国企業を対象とした規制強化などが加わり、軟調な展開となりました。

個別銘柄では、ペイカレント・コンサルティング、NRIなどが寄与度上位となった一方、ラクーンホールディングス、セレスなどが寄与度下位となりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2021年4月27日～2022年4月25日)

項 目	当期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	353	1.797	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 173 )	( 0.878 )	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 173 )	( 0.878 )	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 8 )	( 0.042 )	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	8	0.041	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
( 株 式 )	( 8 )	( 0.041 )	※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	1	0.007	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
( 株 式 )	( 1 )	( 0.007 )	※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	17	0.086	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 4 )	( 0.019 )	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 4 )	( 0.020 )	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 )	( 9 )	( 0.048 )	開示資料等の作成・印刷費用等
( そ の 他 )	( 0 )	( 0.000 )	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	379	1.931	
期中の平均基準価額は、19,663円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

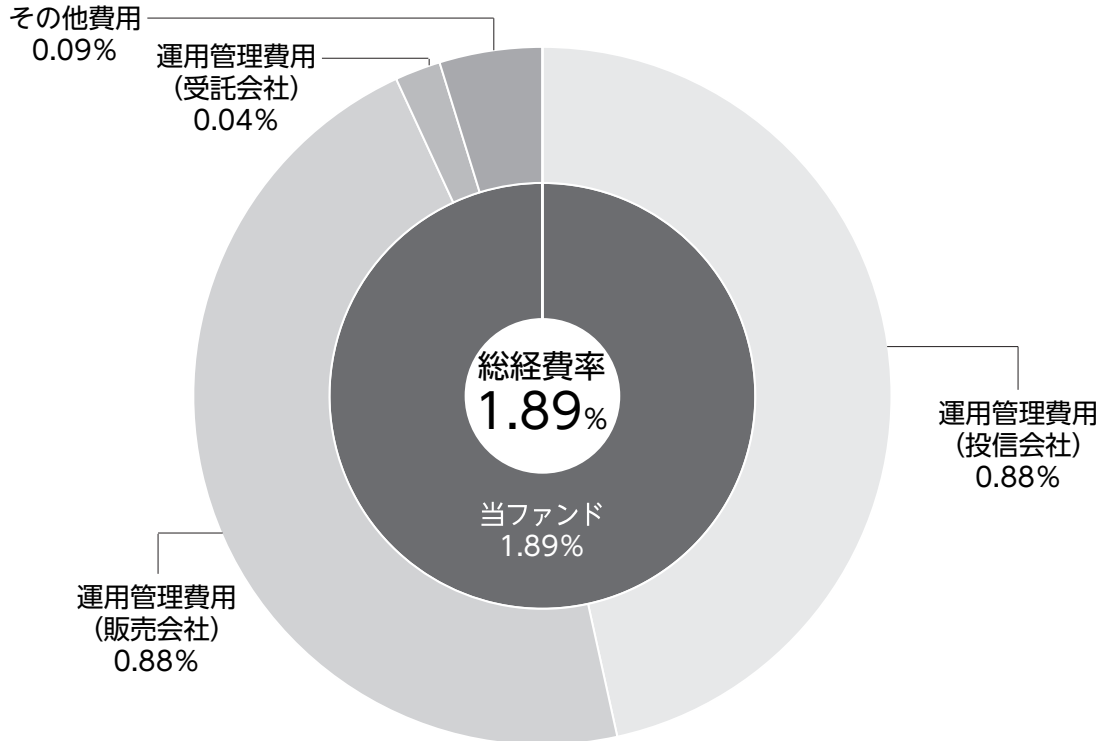
(注3) 各項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.89%です。



(注1) 上記費用は、1口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2017年4月25日～2022年4月25日)



(注1) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ(2017年4月27日から2022年4月25日)のみの記載となっております。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

	2017年4月27日 設定日	2018年4月24日 決算日	2019年4月24日 決算日	2020年4月24日 決算日	2021年4月26日 決算日	2022年4月25日 決算日
基準価額 (円)	10,000	13,306	13,725	12,446	22,660	17,043
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	33.1	3.1	△ 9.3	82.1	△ 24.8
純資産総額 (百万円)	1,429	2,946	6,535	2,800	2,849	1,779

(注1) 当ファンドは、主として、日本を含むアジアの金融商品取引所に上場しているフィンテック関連分野での高い成長が見込まれる企業の株式等 (DR: 預託証券を含みます。) に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2018年4月24日の騰落率は設定当初との比較です。

**投資環境**

(2021年4月27日～2022年4月25日)

※以下のコメントの内容は、モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社からのコメントを基にSBIアセットマネジメントが編集したものです。

期間中の日本やアジアの株式市場は、後半にかけて伸び悩む展開となりました。日本株は、序盤にFRB（米連邦準備制度理事会）のタカ派姿勢が警戒されたほか、新型コロナウイルス変異株の世界的な感染拡大から下落歩調となりました。2021年8月以降は国内好決算銘柄への物色が続いたほか、パウエルFRB議長が利上げに慎重姿勢を示したことが相場を支援し、9月には菅義偉首相の退陣で次期政権への政策期待が高まり、日経平均株価は一時3万円の大台を回復する場面もありました。その後は、中国不動産大手のデフォルト（債務不履行）懸念が投資家心理を冷やし、年末にかけては新型コロナウイルスのオミクロン株への警戒が広がり、弱含みとなりました。2022年1月以降は、米国でのインフレ高進や、それに対するFRBの金融引き締め加速観測、ウクライナ情勢の緊迫化から株価は調整しましたが、日米金融政策の方向性の違いを背景とした円安進行が輸出関連株の支えとなり、終盤は持ち直しの動きも見られました。中国株は、中国当局によるハイテク企業等に対する規制強化の動きや、中国不動産大手のデフォルトが警戒されたほか、新型コロナウイルス感染再拡大による景気減速懸念が重しとなりました。

フィンテック業界では、新型コロナウイルスの感染拡大が社会の変革を促す中、業務効率化および省人化に寄与するDX（デジタルトランスフォーメーション）やRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）、Withコロナやポストコロナで中・長期の成長が期待できる分野に引き続き関心が集まりました。暗号資産の分野では、NFT（非代替性トークン）やSTO（セキュリティトークンオフERING）に加え、メタバースへの関心も高まっています。

## 当ファンドのポートフォリオ

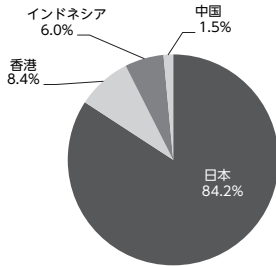
(2021年4月27日～2022年4月25日)

主として、日本を含むアジアの金融商品取引所に上場しているフィンテック関連分野での高い成長が見込まれる企業の株式等（DR：預託証券を含みます。）に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。また、アジア（日本を除く）の金融商品取引所に上場する株式への投資は、原則として信託財産の純資産総額の30%を上限とし、運用いたしました。

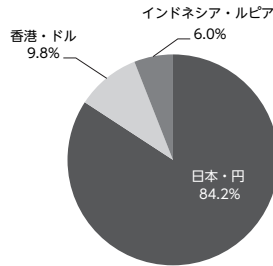
また、投資対象銘柄の選定については、モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社による投資助言を活用し、運用を行いました。

なお、決算日時点のポートフォリオについては以下の通りとなっております。

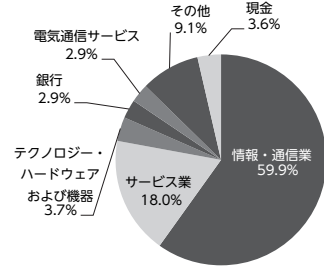
国・地域別構成比率



通貨別構成比率



業種別構成比率



※国・地域別構成比率及び通貨別構成比率は、いずれも組入株式評価額に対する割合です。

※業種別構成比率は、純資産総額に対する割合です。

※記載の比率は、四捨五入の関係で100%にならない場合があります。

※国・地域は投資国または発行国を表示しているため、主要取引所国とは一致しない場合があります。



**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2021年4月27日～2022年4月25日)

当ファンドは、主として、日本を含むアジアの金融商品取引所に上場しているフィンテック関連分野での高い成長が見込まれる企業の株式等（DR：預託証券を含みます。）に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

**分配金**

(2021年4月27日～2022年4月25日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**○分配原資の内訳**

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第5期
	2021年4月27日～ 2022年4月25日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	10,093

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の見通しと運用方針

引き続き、主として、日本を含むアジアの金融商品取引所に上場しているフィンテック関連分野での高い成長が見込まれる企業の株式等（DR：預託証券を含みます。）に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

なお、投資助言を行っているモーニングスター・アセット・マネジメント株式会社では、以下のよう  
にコメントをしています。

米国の金融引き締め、ロシアによるウクライナ侵攻、中国の新型コロナ感染拡大に伴うロックダウン（都市封鎖）と株式市場にはマイナスの要因が重なり、投資環境としては厳しい状況となっています。ただ、新型コロナ感染拡大の影響により人々の生活が変化し、DX化やクラウド化、ビッグデータの活用などフィンテック業界の革新は今後も続くと考えられ、引き続き関連銘柄への注目は高いと考えています。

暗号資産市場は、投資家のリスクオフの影響から厳しい環境となっていますが、グローバルでは暗号資産が投資対象としての地位を向上させており、機関投資家などの参入も目立ちます。また、CBDC（中央銀行デジタル通貨）発行に向け多くの中央銀行が検証を進めており、CBDCについては着実に具現化が進んでいると見ています。さらに、メタバースやNFT、Defi（分散型金融）などのブロックチェーン技術をベースとした技術も進展を見せており、関連企業には引き続き注目したいと考えています。

アジア株については、中国の新型コロナ感染症拡大の影響を受け厳しい環境ですが、高いモバイル利用率を背景にキャッシュレス化の流れが進むと見ており、感染拡大一巡後は、フィンテック関連銘柄も見直されると考えられます。引き続き、DXに関する新しい技術を積極的に取り入れ、変化に対応できる企業や、新興企業を継続的にウォッチし、銘柄の厳選に注力してまいります。

## お知らせ

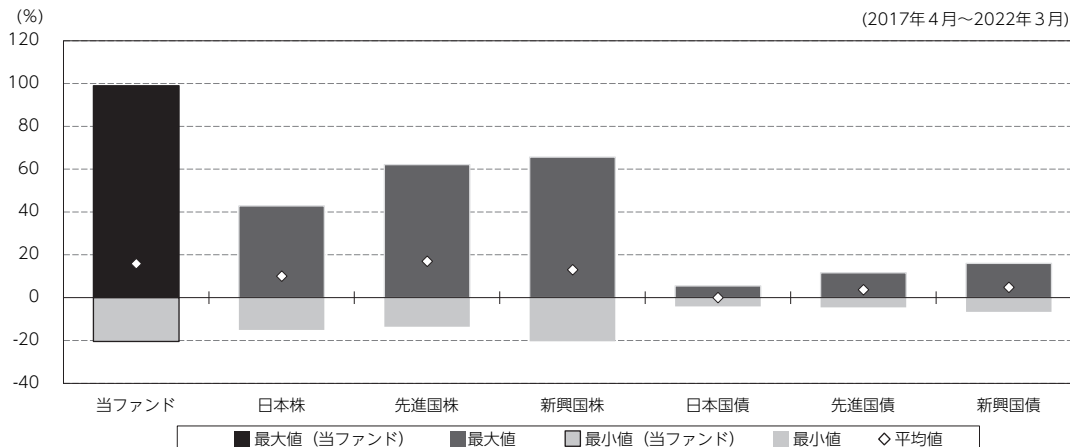
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2027年4月26日まで（設定日：2017年4月27日）
運用方針	信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	日本を含むアジアの金融商品取引所に上場する株式等（準ずるものを含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	主として、日本を含むアジアの金融商品取引所に上場しているフィンテック関連分野での高い成長が見込まれる企業の株式等（DR：預託証券を含みます。）に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。アジア（日本を除く）の金融商品取引所に上場する株式への投資は、原則として信託財産の純資産総額の30%を上限とします。組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。また、投資対象銘柄の選定については、モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社による投資助言を活用します。
分配方針	年1回（原則として毎年4月24日。ただし、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	99.0	42.8	62.2	65.6	5.5	11.6	16.0
最小値	△ 20.4	△ 15.1	△ 13.6	△ 20.4	△ 4.1	△ 4.6	△ 6.6
平均値	15.9	10.1	17.1	13.1	0.1	3.7	4.8

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2017年4月から2022年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、2018年4月末から2022年3月末のデータを基に算出しております。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

## 《代表的な各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

\*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2022年4月25日現在)

## ○組入上位銘柄

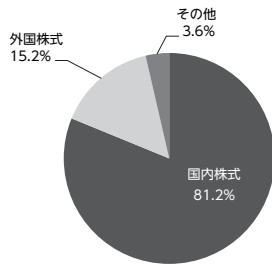
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	イー・ガーディアン	サービス業	円	日本	6.5
2	ペイカレント・コンサルティング	サービス業	円	日本	6.3
3	ラクーンホールディングス	情報・通信業	円	日本	5.3
4	ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	5.0
5	テクマトリックス	情報・通信業	円	日本	4.7
6	S C S K	情報・通信業	円	日本	4.3
7	野村総合研究所	情報・通信業	円	日本	3.9
8	T I S	情報・通信業	円	日本	3.9
9	P A X グローバル・テクノロジー	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	ドル	バミューダ	3.7
10	セレス	情報・通信業	円	日本	3.5
	組入銘柄数	40銘柄			

(注1) 各比率は、純資産総額に対する割合です。

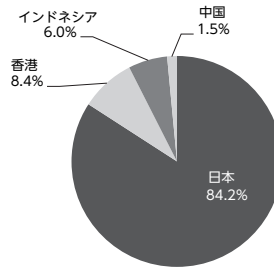
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

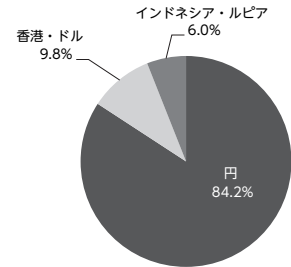
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別・通貨別配分の比率は組入株式評価額に対する割合です。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## 純資産等

項目	第5期末
	2022年4月25日
純資産総額	1,779,800,633円
受益権総口数	1,044,269,772口
1口当たり基準価額	17,043円

(注) 期中における追加設定元本額は90,552,195円、同解約元本額は303,544,925円です。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### <各指数の概要>

- 日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

### <重要事項>

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。